

みんなで話し合い、みんなで取り組み、支え合う集落・地域を目指して

# 砂山地域まちづくり新聞

Vol. 25  
2019年  
2月15日号

## 災害に強いまちづくりをめざして取り組んでいます！



6班に分かれて避難所運営を学びました

近年は、全国のあちこちで、地震、台風、大雨等の災害が多発しています。私たちの地域でもいつ大きな災害が発生するかわかりません。これからも砂山地域の6集落で話し合いながら、安心して暮らせる地域づくりに取り組んでまいりますので、地域の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

いざ災害が起きた時に、混乱せず、自分たちで住みやすい環境を作ることができるよう、「地域住民」「施設管理者」「行政」の三者で話し合い、あらかじめルールを作っておくことも大切です。

砂山地域の拠点避難所は砂山小学校ですが、大勢の人が一斉に避難してきた際に、たとえば、「病気や怪我の人が避難してきたらどうするか?」「ペットを連れて来たときはどうするか?」「受付や連絡などの役割分担は?」等々、具体的なルールが決められていないこともたくさんあります。

大きな災害が起きると、同時に多くの避難所が開設され、避難所生活が長くなることも多く、住民同士で助け合う「共助」が必要になります。

砂山地域まちづくり協議会では、各集落の自主防災組織と連携して、「災害に強いまちづくりに取り組んでいます。昨年(2018年)の11月に実施した『避難所運営ゲーム HUG(ハグ)』では、参加者の皆さんが避難所の運営を模擬体験しました。

# 災害時に困ることは？

昨年の夏に視察研修で訪れた新潟市東区の寺山公園には、公園内のベンチが災害時にはトイレや釜戸として使えるなど、防災機能を有する設備が設置されており、大変参考になりました。

災害が起きると、電気や水が使えなくなることもあるため、特に非常用のトイレを確保することは重要な問題です。

避難所でトイレが使えなくなったらどうしますか？被災地の過去の事例などを学びながら、様々な問題について皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



釜戸ベンチ



下水道と直結して災害時の仮設トイレになります。ベンチ座面を外し便座部分を取り付けて使用します。



## 砂山地域の航空写真



私たちは暮らす砂山地域は、日本海と荒川に面した平地に位置しており、過去には羽越水害や新潟地震の被害を受けました。また、東日本大震災の津波による被害は、海の近くで生活する私たちに大きな衝撃を与えました。災害はいつ起きるかわかりません。被害を最小限に防ぎ、そして大切な命を守るためにも、いざという時の避難経路や持ち物などについて、家族や町内の人たちと定期的に確認し合う習慣をつけましょう。

## 「防災セット」をご存知ですか？



各種会合の際などにもご活用ください！



### 砂山地域の取組みを発表

1月26日(土)に村上市総合文化会館で開催された「第3回地域まちづくり組織・活動発表会」で、砂山地域の合同防災訓練について発表しました。約150名の出席でしたが、「自分の地域でも是非やってみよう」との声をいただきました。

地域の情報をおよせください。ご意見・ご感想・問い合わせは

- 神林支所地域振興課自治振興室
- 電話・告知端末 66-6122
- メール k.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp
- ホームページ URL <http://www.city.murakami.lg.jp/>

※村上市のホームページでも「市民協働のまちづくり」を紹介していますのでご覧ください。